

■フランス：三菱重工、日本原燃、アレバ子会社に計10%出資へ

フランスの総合原子力企業アレバは2017年2月3日、同日開催された株主総会で原子燃料サイクル事業を手掛ける新子会社NEW COに、三菱重工業および日本原燃が5%ずつ出資することを承認した。これにより、両社が計5億ユーロ（約600億円）を拠出し、再建を支援することになる。また、報道ではこれまで出資が濃厚とされていた中国核工業集团公司（CNNC）は、アレバとの交渉が決裂したことから出資を断念する可能性があるとしている。CNNCは、NEW COに関し「日本側より出資比率を高め、仏政府に続く第2の株主となること」や「取締役を送り込むこと」を強く求めたが、仏政府がこれを拒否したことが背景にある模様。ただし、当初アレバ側はNEW COへの外国企業の出資比率を3分の1程度と計画していたこともあり、中国の投資家が今回の増資に参加する可能性が完全に無くなったわけではないと報じられている。また、今回の増資に伴いCEA（仏原子力庁）のヴェルヴァルド長官は、パートナー先として、「長期的には、忠実な関係を保ってきた日本とのパートナーシップが望ましい」と述べる一方、中国に関しては「今後30年間、中国がフランスをどこまで必要とするのか、また中国の成長が減速する中、今後も現在と同様の資金的・戦略的手段を取ることができるのか」という点に疑問を示した。